



○令和7年 8月25日 2学期始業式を終えて ～始業式講話～要約文掲載

問いを立て、
未来を切り拓け！



さて、本日みなさんにお話したいのは「**探究力をつけること・問いを立てることの大切さ**」です。

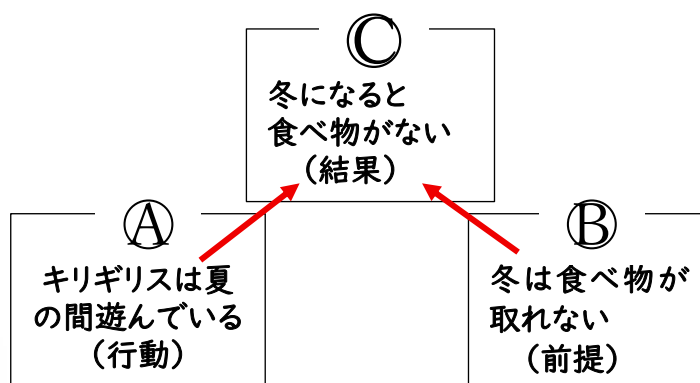
「探究力」とは、ただ知識を覚えるだけでなく、なぜだろう、どうしてだろうと問いを立て、自分で調べ、考え、答えを見つけ出す力のことです。社会は今、大きく変化しています。これからの時代は、先生や教科書が与える答えを覚えるだけでは通用しません。自分で課題を発見し、周りとの協力しながら新しい答えをつくり出すことが求められます。

1. 「アリとキリギリス」の物語をどう捉えるか。

みなさんも知っている「アリとキリギリス」の話、暑い夏、アリ達が必死に働いています。それを見たキリギリスが言いました。「こんなに暑い日に必死で働くなんて、どうかしているよ!」

アリが言い返しました。「ちゃんと食べ物を集めておかないと、冬になったら大変なことになるよ!」えっ? 今から冬の心配なんて変なのー」キリギリスは馬鹿にしたようにアリ達のことを笑いました。アリ達は、毎日一生懸命働きました。キリギリスは、毎日歌ったり、踊ったり、遊んで暮らしました。やがて夏が終わりあっという間に秋も過ぎて……そして、冬がやってきました。

食べ物が無いでしょう……キリギリスがトボトボと歩いていると遠くに家の光が見えました。「何か食べ物を分けてもらおう!」行ってみるとそこはアリ達の家。馬鹿にして笑ったのに食べ物をもらえるはずもなく……「ああ、ちゃんと働いておけば良かった……」キリギリスはとても後悔しました。この物語からあなたは、何を学びますか。「コツコツとしっかり働くことが大事である」ことでしょうか。結果には、必ず原因があります。



㊦(行動)かつ㊦(前提)ならば㊦(結果)となる

ここで考えて欲しいのは、結果を変えられるのは「行動」だけなのか。「冬は食べ物が取れない」という(前提)を変えることはできないのだろうか。そう考えると次のような「問い」が浮かんできます。**「冬にも食べ物が採れるようにするにはどうしたらいいのか?」冬にも食べ物が採れるようにしたら、既成概念を変えるブレイクスルーと言えるのではないだろうか。**

社会人になると、正解のない問題だらけの世の中で生きていくことになります。

たとえば、競合他社のヒット商品と同じものをつくっても、差別化できないので売れない。

その例として、2007年、それまでの携帯電話は、「電話+メール+小さな画面」が常識でした。スティーブ・ジョブズはそこで、問いを立てました。

「もし、電話、音楽プレーヤー、インターネットをひとつにまとめたらどうなるだろう?」



その結果、生まれたのが iPhone です。当時はそんなもの売れるかと思われていましたが、いまや世界中の人の生活を変える存在になりました。他の例で、ゲーム機と言えは「高性能・高画質」が競争の中心でした。しかし、任天堂は、「性能で勝負するのではなく、体を動かして家族みんなで遊べるゲームを作ったらどうなるだろう?」と問いを立て、「Wii」を発売しました。その結果、大ヒットとなり、それまでゲームに興味が無かった層まで市場を広げました。

では、先程のギリギリスはどうなったでしょうか。あれから冬の間ずっとギリギリスはフラフラと森をさまよい続けていました。「冬には食べ物が採れないのに夏にもっとちゃんと働いておけば良かった。……」すると、目の前に突然、「問いの力村」が現れました。村の入り口の門に張り紙があります。

この村に入るには、次の問いに答えなくてはならない。「覆すべき前提」は何か?ギリギリスは必死で答えを考えました。僕にとって覆すべき前提は…「冬には食べ物が採れないということかな?」ギリギリスが答えると門が開きました。

ギリギリスは、冬にも食べ物が採れるようにするために一生懸命アイデアを考えました。「冬に食べ物が採れさえすれば、みんなに喜ばれるはず!」「そうだ!太陽の光で畑を温めればいいんだ!!」ギリギリスのアイデアを実現するために「問いの力村」の村人達は全員喜んで助けてくれます。なぜならば、食べ物が採れないと思われている冬でも食べ物が採れるようにしたら、世の中の既成概念(そういうものだ)を覆すイノベーションになり、村を支える大きな産業になるからです。こうして 冬でもたくさんの食べ物が採れる温室が完成しました。もう冬に食べ物に困る事はありません。また、暑い夏がやってきました。あれ? アリ達は必死で働き続けること無く休んでいます。アリがギリギリスに言いました。「冬でも食べ物が採れるようになったおかげで、働き方が変わったよ。ギリギリスさん、ありがとう。」

探究力を高めるためには、日常生活の中でも「なぜだろう?」を大切に、「もし、こうだったら」と問いを立てることが、探究の第一歩です。答えは一つではありません。2学期には、文化祭や体育祭、検定試験など、みなさんが自分の力を発揮できる場が数多くあります。その中で「ただ参加する」だけではなく、「どうすればもっと良くなるのか?」を考え、実行することで、探究力は確実に磨かれます。

2 学期の問い「どうすればもっと良くなるのか?」「どうすればもっと自分を高められるのか?」「もし、〇〇すればきっと良くなる。」「もし、〇〇すれば、自分を高められる。」その問いに挑戦してください。

〇「沖縄戦後80年」 平和の尊さを改めて問い直す



今年の 6 月に沖縄で開催された九州地区高等学校 PTA 連合大会に参加し、沖縄平和記念資料館を訪れました。そこで、80年前沖縄戦でおびただしい数の砲弾や銃弾が飛び交い、多くの命が失われた現実に触れ、改めて平和の尊さを実感しました。移動中のバスでは「島唄」という歌に込められた意味についてガイドより説明を受けました。その一部を紹介します。(写真は、デイゴの花、島唄に込められた思い)

- ・「でいごの花が咲き 風を呼び 嵐が来た」
→ **デイゴが咲き始めた 4 月に米軍が上陸した。**
- ・「ウージの森で あなたと出会い ウージの下で 千代にさよなら」
→ **さとうきび畑で、あなたと出会い、さとうきび畑の下(洞窟)で永遠の別れをした。**
- ・「島唄よ 風に乗れ 鳥とともに 海を渡れ」
→ **島唄よ 風に乗って 魂を本土までとどけてくれ**

表面的には美しい歌ですが、その背後には「二度と戦争を繰り返してはならない」という沖縄の人々の願いが刻まれているのです。

その沖縄で、この夏、沖縄尚学高校が甲子園で初優勝を果たしました。苦難の歴史を抱えながらも未来に挑戦する若者の姿に、大きな勇気をもらった人も多いことでしょう。平和があるからこそ、私たちは仲間と共に学び、挑戦することができます。どうか当たり前の日常の尊さを忘れず、2学期も一日一日を大切に過ごしてほしいと願っています。

